



Integrating

早稲田大学大学院 社会科学研究科

WASEDA UNIVERSITY

Graduate School of Social Sciences

Theory & Practice = SOLUTION

CONTENTS

- 2 研究科長メッセージ
- 4 社会科学研究科の特色と構成
- 6 履修方法および修了要件
- 8 研究指導一覧
- 10 修士課程授業科目一覧
- 12 奨学金制度
- 13 授業時間帯と時間割
- 14 学費·諸会費/志願者·合格者数
- 15 学位論文題目(一部)
- 16 現代日本学プログラムについて
- 18 Dean's Message
- **20** Overview of the Graduate School of Social Sciences
- 22 Program and Graduation Requirements
- 23 List of Research Majors
- 24 List of Masters Program Courses
- 28 Scholarships
- **30** Facts:

Time Table

Enrollment Costs for Academic Year 2013 [Reference] Result of Entrance Examination

32 English-based Degree Program [CJSP]



新たな知の構築を目指して

(1)研究者養成と実務家養成-研究と実務の交流

現代社会が複雑化し、より高度な専門性と幅広い知識が必要とされるにつれ、大学院教育の重要性が増してきました。これまで、大学院は研究者養成を主要な目的としてきましたが、近年は実務者養成を目的とする大学院も増えています。実務に直結するような研究科が設置され、なかには国家資格の取得を目的とするものもあります。このように大学院の多様化が進んでいますが、どちらかの目的に特化したカリキュラムになっていることが多いようです。

社会科学研究科の基本理念のひとつは「研究者養成と 実務家養成一理論と実務の交流」です。そのため、どちらかに重きを置くのでなく、研究者を目指す学生も、実 務家を目指す学生も、ともに切磋琢磨しながら、その能 力を伸ばすことができるカリキュラムを提供しています。

本研究科は設立当初から、学部を終えたばかりの学生だけでなく、社会人にも広く門戸を開き、講義、演習などすべてにおいて、ともに学ぶ体制をとってきました。2007年度からは外国人留学生の方々も積極的に受け入れていく仕組みを取り入れました。近年は、アジアを中心とする留学生が増え、早稲田大学の中で留学生比率の高い研究科のひとつになっています。さらには2012年度秋学期から英語による講義、演習、指導のみで学位の取得が可能な「現代日本学プログラム」(Contemporary Japanese Studies Program)も始まりました。英語による講義科目は、一般プログラムの院生の履修も可能です。

「理論と実務の交流」のためには、さまざまな目的とキャリアをもった人々がともに学び、理論・理念と現実社会との間でフィードバックを繰り返しながら研究を進めるこ

とが不可欠です。その意味で実務経験を積んだ社会人院生の存在は、観念的・理念的になりがちな議論を現実に引き戻してくれるでしょうし、逆に現実社会に捉われない理性や感性が社会人院生にとって新鮮な刺激となることもあるでしょう。加えて、留学生は海外からの異なった視点を提供してくれるはずです。このような多様な見方や志向性が交錯するなかで、院生や教員が新たに気づくことも多く、さまざまなバックグランドをもった院生がともに学ぶことによる教育・研究効果には大きなものがあります。

社会科学研究科には、海外の研究者と幅広いネットワークをもった研究スタッフが多数おります。大学院生を連れての海外調査も行われております。早稲田大学は海外の大学との間で多くの学術協定を結んでおりますので、それを利用して留学する機会も数多くあります。また、中国の北京大学との間では博士課程のダブルディグリー協定(両大学の学位を同時に取得できるプログラム)も結んでいます。こうした海外とのネットワーク、留学生の受け入れなどによって、研究科の国際化は、今後さらに進むものと期待されます。

(2)社会科学の総合化・学際化の理念化とその実現へ

本研究科の第二の基本理念は「社会科学の総合化・学際化」です。現代社会が直面する問題や現象はきわめて複合的であるため、多角的視点からの分析が不可欠であり、あらゆる専門知識を動員することが求められます。しかし、複数の学問領域の専門知識を修めることは不可能です。それでも、軸足をある専門分野において、他の専門分野の基礎概念、分析方法を理解して、批判する力、構想する力を育みながら、現代社会の諸問題に切り込んでいくことは可能だと考えます。もちろん、そのためには人一倍の努力が必要であることは言うまでもありません。



本研究科で研究指導、講義などを担当する教員は、社会科学、人文科学、自然科学の諸領域、具体的には政治学、法学、経済学、商学、社会学、歴史学、哲学、そして理学などの伝統的な学問領域で学び、研鑚を積んできました。しかし、その専門の枠にとどまることなく、社会科学総合学術院の構成員として、社会科学の総合化・学際化に向けての研究姿勢を培ってきました。このような姿勢は、研究指導、演習などを通して、院生にしっかりと引き継がれることになります。修士課程、博士課程ともに、指導教員だけでなく、他の教員が少し異なった専門分野から院生指導をサポートする体制が取られているのは、そのためでもあります。

修士課程では修了要件を満たすために講義科目も履修せねばなりませんが、その選択の自由度が大きいことも本研究科の特徴です。本研究科は「地球社会論」と「政策科学論」の2専攻から構成され、さらに11の研究分野に分かれていますが、それは一つのガイドラインにすぎません。むしろ、複合的な視点をもつためには、専攻・分野の壁を越えて、各自が自分自身のメニューを選択し、独自の分析視角を作りあげていくことが求められます。そうすることによって、専門性の狭隘な深みにはまりがちな研究姿勢が回避されて、本研究科ならではの学際的な研究が行われることになります。

(3)新たな知の構築を目指して

社会科学研究科は、修士課程が1994年に、博士課程が1996年に開設された若い大学院ですが、それゆえに新たな試みを実践し、たえず現実社会の変化や要請に対応した改革を続けてきました。たとえば近年では、サステイナビリティ学、現代日本学、人的資源エンパワメント、都市計画・計画デザインのような新分野が設置されました。本研究科では理論、思想など社会科学の基礎

研究を行うこともできますし、環境、平和、国際協力、福祉、企業、労働、地域社会など、現代社会が直面するイシューから、研究を進めていくこともできます。

すでに多くの方々が修士、博士の学位を取得して、新たな視点をもった研究者として、あるいは幅広くかつ専門性の高い知識をもった実務家として、社会で活躍しています。活躍の場は研究・教育機関、行政機関、市民団体、企業、政界などさまざまです。留学生も含めて、今後グローバルな場で活動をする人たちも増えてくることでしょう。本研究科の二つの理念、「研究と実務の交流」および「社会科学の総合化・学際化」は、現代社会の要請にかなったものであり、ゆえに社会的に貢献しうるものです。これからも学部を卒業したばかりの学生、実務経験の豊かな社会人、および留学生がともに学べる教育・研究の場として、新たな知の構築を目指していきます。

本研究科は、昼夜開講制をとることによって、社会人院生には仕事との両立が可能なように、あるいは一般学生や留学生には昼間を中心とした履修も可能なように、多様なニーズに対応できる体制も整っています。社会科学研究科で、ぜひ多くの方々に私たちと一緒に新たな知の構築にチャレンジしていただきたいと思います。



大学院社会科学研究科長

畑 惠子

社会科学研究科の特色と構成

研究者養成と実務家養成一理論と実務の交流一

最近の大学院は、いわゆる従来型の研究者養成を中心とする研究科以外に、専門職大学院が登場し、実務に直結するような研究科が設置されてきています。そして、中には国家資格を取得できることを大きな目標とする研究科も設置される状況にあり、いわば大学院の多様化がここ数年際立つようになってきました。

そうした状況の中、大学院社会科学研究科では、多岐に わたるジャンルの研究者スタッフをそろえ、新たな学際的視 点を有する研究者を養成すると同時に高度な専門知識を有 する実務家を養成するという目標をかかげています。

本研究科が持つ利点の一つは、学部卒の方の他に、昼 夜開講制を採ることにより、実務に携わる社会人を始めとし、 外国人留学生の方を積極的に受け入れていく仕組みが整え られていることです。

社会科学の総合化・学際化の理念とその実現へ

社会科学研究科では、多種多様のスタッフ-古典的な言い方をすれば、社会科学・人文科学・自然科学のそれぞれの分野で、あるいは別の言い方をすれば、文系および理系の大学院で専門的研究をしてきた教員が、スタッフとして研究指導を行っており、基本的理念である社会科学の総合化および学際化を目指しています。

この理念の実現のために、多岐にわたる専門家たる研究者に集まってもらい、研究指導を行うことによって、有能な研究者・実務家の育成を目指しています。

社会人にも開かれた昼夜開講大学院

社会

社会人学生 社会人の教育参加 (オムニバス授業) 学生の実地調査

研究

個別研究/共同研究 基礎研究/先端研究 理論研究/実践研究 教育

実践的専門知識の収得 理論構築 教養

2013 年度 大学院社会科学研究科の構成

地球社会論専攻

基礎社会科学研究

複雑化した諸問題に対する多次元的な総合的アプローチを 試み、複雑さを増している現実からの問いかけに対して、こ の問題領域での新しい理論構築を試みることを研究課題と しています。

国際社会研究

従来、国家間の関係に力点がおかれてきた「国際社会研究」 を、よりグローバルな視点に転換させる試みであり、理論研究および生活実践の場を地球共同体に求め、地球という超 広域的視座からトータルな社会研究を推進します。

政策科学論専攻

公共政策研究

現代社会の公共領域における政策形成のあり方、政策主体、 具体的な政策手段について研究。政策形成、行政組織、医療 福祉、財政過程、市民生活の基本ルールとしての道路交通法 などへの接近を試みます。

市民社会研究

市民社会の法的側面と政治的側面を再検討し、基本的には、市民生活における制度のあり方を考察することにより、世論の合意形成と政策手段について理論的、制度的側面から研究を行います。

人的資源エンパワメント研究

グローバル化の時代に、企業はもとより地方自治体や NPO などの団体・組織も含めて、構成員の採用・配置・育成および アウトソーシング等の問題に取り組まざるをえない状況にある。できるだけ地域に根ざした具体的事例を踏まえつつ、幅 広く問題の分析に当たります。

福祉社会・政策デザイン研究

21 世紀の課題は「福祉社会の再構築」です。理論的、実践的観点から、国際比較研究を基礎として、福祉社会の再構築のための政策・制度づくりの実際について研究し、現場感覚を持った研究者・理論的視点を持った実務家を養成します。この分野では、所属教員による集団指導をベースにした学際的研究指導を行います。

サスティナビリティ学研究

サスティナビリティは現在の環境問題におけるキーワードです。明日の環境問題解決のための提言を、理論的、実証的、学際的に行うことができる人材の育成を目指し、幅広い(自然科学、社会科学的)バックグラウンドを持つ教員が集団指導を行います。また必要に応じて分野外の教員とも連携をとります。

地域研究

経済、政治、福祉といった領域で、いま新しい展開を見せ始めた地域を対象として、トランス・ナショナルな視点から、国家間の関係と国家と地域との新たな関係のあり方を研究します。

現代日本学研究

「現代日本」を人文科学と社会科学の視角から総合的にとらえることによって、「現代日本学」の構築を目指し、広く「日本」を発信できる研究者と専門家を養成します。

都市社会・計画デザイン研究

成熟社会の都市社会・計画デザインは、都市・地域の社会・ 文化・環境的な社会システムの再構築が課題です。学際的 実践的な研究指導により都市・地域政策、地域経営やまちづ くりの現場における社会的意思決定の専門家、理論的な枠 組みを持った実務家を養成します。

現代経営·企業研究

企業をとりまくさまざまな利害関係を研究対象として、そこに生起している具体的な諸問題に接近し、問題解決の方法を探究しながら、経営に対する政策提言を引き出す研究を行います。

※「福祉社会·政策デザイン研究」および「サスティナビリティ学研究」は、「地球社会論専攻」と「政策科学論専攻」に横断的に設置されている研究分野です。

履修方法および修了要件

修士課程

① 教育課程

本研究科に設置されている科目は、以下のとおり区分されます。

科目の種別			
修士論文	演習		
研究指導	講義科目		

❷ 履修方法および修了要件

修了要件は、本大学院に2年以上在学し、所定の授業科目について以下の区分により、32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで、修士論文を提出し最終試験に合格しなければなりません。

区分	単位数
演習Ⅰ・演習Ⅱ	8 単位(2 単位× 4 科目)
講義科目	24 単位(2 単位× 12 科目)
at	32 単位

※講義科目は、所属する専攻に関わりなく、地球社会論・ 政策科学論どちらの専攻の設置科目でも履修できます。ま た、別に定める他機関・他研究科修得単位を含めることが できます。

年度ごとに履修できる単位数の制限はありませんが、標準 的な単位の修得方法は下表のようになります。

兴左	授業	科目	≡⊥	
子	演習	講義科目	ĒΙ	
1年	4 単位(演習Ⅰ)	16 ~ 20 単位	20 ~ 24 単位	
2年	4 単位(演習Ⅱ)	4 ~ 8 単位	8 ~ 12 単位	
計	8 単位	24 単位	32 単位	

❸ 学位の種類

本研究科の修了生には「修士(学術)」の学位が授与されます。

入学~修士論文作成スケジュール

1	春学期(入学 [出願] 時)	修士論文研究計画書提出
年次	秋学期(2月上旬)	修士論文提出予定届提出
	春学期(5 月上旬)	修士論文計画書提出
	春学期(6 月上旬)	審査員(副査)決定
2	秋学期(10月下旬)	研究発表会
年次	秋学期(1 月上旬)	修士論文提出
	秋学期(1月下旬)	口頭試問
	秋学期(3月下旬)	修了[学位授与]

教員・学生・社会人のコラボレーション



博士後期課程

(1)修了要件

博士後期課程の修了要件は、3年以上在学し、指導教員から論文作成のために必要な所定の研究指導を受けたうえ、博士学位論文の審査および最終試験に合格しなければなりません。

合格者には、「博士(学術)」の学位が授与されます。

※大学院学則第14条第1項ただし書の規定により、本研究科において博士後期課程の在学期間を短縮して終了できる制度があります。

(2)履修方法

博士後期課程は、授業科目について必要単位はありませんが、指導教員の指導と学生自身の自発的な研究活動によって成り立っています。そのため、研究に十分な時間を割いて、 学位論文の完成に専念しなければなりません。

ただし、研究上必要となる場合、指導教員の許可を得た うえで、修士課程に設置されている講義科目を履修するこ とができます。

なお、本研究科では、2008年度より、標準修業年限(3年間)内に博士学位授与を促進することを目的として、以下のような指導プロセスを採っており、原則として、このモデルに基づいて、研究を行い、学位論文を作成し、申請することになります。

[4月入学者]

[17]/(1-1)			
1	4月(入学[出願]時)	博士後期課程研究計画書提出	
年次	10 月中	博士論文計画書を提出	
十八	11月	副指導教員決定	
2	随時(授業期間中)	院生・教員合同セミナーで報告	
年次	10 月中	博士論文作成経過報告書提出	
	6 月頃	中間報告会	
	~ 7 月末日	学位論文提出締切日	
	10月	予備審査の実施	
3	10月	受理審査一審査委員会設置	
年次	1月	公聴会·面接試験	
	1月下旬	本審査終了	
	2月	運営委員会審査結果報告·最終審査	
	3月	学位授与	

[9月入学者]

L- / 3/ 4	, 11.	
-1	9月(入学[出願]時)	博士後期課程研究計画書を提出
年次	4月中	博士論文計画書を提出
十八	5月	副指導教員決定
2	随時(授業期間中)	院生・教員合同セミナーで報告
年次	4月	博士論文作成経過報告書を提出
	11 月頃	中間報告会
	1 月末日	学位論文提出締切日
	2月	予備審査の実施
	3 月	受理審査-審査委員会設置 審査開始
3	6月	公聴会·面接試験
年次	6月下旬	本審査終了
	7月	運営委員会審査結果報告・最終審査
	7.73	※ただし、審査対象論文が多い場合は、 別途審査のための運営委員会を開催する。
	9月	学位授与



研究指導一覧

研究分野	研究指導名	指導教員	
 基礎社会科学研究		 古賀 勝次郎 教授	
			理学博士(早大)
	生命倫理学		
	生命科学	輪湖 博 教授	理学博士(早大)
	現代社会学	成富 正信 教授	
	政治思想	厚見 恵一郎 教授	博士(政治学)早大
	理論社会学·現代社会論	周藤 真也 准教授	
	比較人口学	小島 宏 教授	Ph.D.(ブラウン大)
国際社会研究	国際関係論	多賀 秀敏 教授	
	現代経済開発論	トラン・ヴァン・トゥ 教授	経済学博士 (一橋大)
	国際経済法	福永 有夏 教授	
	国際協力・平和構築論	山田 満 教授	博士(政治学)神戸大
サスティナビリティ学研究	環境法政策	黒川 哲志 教授	博士(法学)京大
	ユーラシア研究 (*)	弦間 正彦 教授	Ph.D. (ミネソタ大)
地域研究	ユーラシア研究 (*)	弦間 正彦 教授	Ph.D. (ミネソタ大)
	ラテンアメリカ研究	畑 惠子 教授	
	日本外交史 · 中国地域研究 (*)	劉 傑 教授	博士(文学)東大
	日本歴史論 (*)	島 善髙 教授	博士(法学)京大
	日本文化論(*)	内藤 明 教授	
	漢字文化圏研究(*)	笹原 宏之 教授	博士(文学)早大
	比較文化・比較基層文化論 (*)	池田 雅之 教授	
現代日本学研究	日本歴史論 (*)	島善高教授	博士(法学)京大
	日本文化論 (*)	内藤 明 教授	
	漢字文化圏研究(*)	笹原 宏之 教授	博士(文学)早大
	日本外交史·中国地域研究(*)	劉 傑 教授	博士(文学)東大
	国際協力・平和構築論(*)	山田 満 教授	博士(政治学)神戸大
	日米比較文化論	コーガン・トーマス・ジョセフ 教授	Ph.D. (ハワイ大)
	比較文化·比較基層文化論 (*)	池田 雅之 教授	
	国際関係論(*)	多賀 秀敏 教授	
	社会思想 (*)	古賀 勝次郎 教授	経済学博士 (早大)
	現代社会学 (*)	成富 正信 教授	
	現代経済開発論(*)	トラン・ヴァン・トゥ 教授	経済学博士 (一橋大)

[%]「福祉社会・政策デザイン研究」および「サスティナビリティ学研究」は、「地球社会論専攻」と「政策科学論専攻」に横断的に設置されている研究分野です。

政策科学論専攻			
研究分野	研究指導名	指導教員	
公共政策研究	現代メディア論	有馬 哲夫 教授	
		辻 隆夫 教授	
	産業政策論	土門 晃二 教授	
	比較憲法論	西原 博史 教授	博士(法学)早大
市民社会研究	市民生活関係法	大西 泰博 教授	博士(法学)早大
	現代人権論	後藤 光男 教授	
人的資源エンパワメント研究	労使関係法	清水 敏 教授	
	ジェンダー論	大森 真紀 教授	博士(経済学)慶大
	企業論 (*)	井上正 教授	
	ソーシャル・ガバナンス (*)	篠田 徹 教授	
	行政過程論 (*)	辻 隆夫 教授	
福祉社会・政策デザイン研究	福祉関係論	久塚 純一 教授	
	都市居住環境論 (*)	早田 宰 教授	博士(工学)早大
	ソーシャル・ガバナンス (*)	篠田 徹 教授	
都市社会・計画デザイン研究	政策情報論 (*)	土方 正夫 教授	
	都市居住環境論 (*)	早田 宰 教授	博士(工学)早大
	都市・コミュニティデザイン論	卯月 盛夫 教授	博士(工学)早大
	空間映像論	佐藤 洋一 教授	博士(工学)早大
サスティナビリティ学研究	環境経済学	赤尾 健一 教授	博士(農学)京大
	産業連関分析論	鷲津 明由 教授	博士(商学)慶大
現代経営・企業研究	企業論 (*)	井上 正 教授	
	政策情報論(*)	土方 正夫 教授	
	国際経営論	長谷川 信次 教授	経営学博士(パリ第一大)
	企業財務論	葛山 康典 教授	博士(工学)早大
	市場経済論	戸田 学 教授	Ph.D. (ロチェスター大)
	流通科学(修士)		
	流通システム論(博士後期)	一 野口 智雄 教授	
	企業法制研究	川島 いづみ 教授	

^{*} 印の研究指導については「複数の研究分野」に開設されています。

修士課程 授業科目一覧

开究分野	講義科目名	演習科目名
基礎社会科学研究	社会哲学 ・	 社会哲学研究演習 ·
	社会規範論 ・	
	社会思想 ・	 社会思想研究演習Ⅰ·Ⅱ
	現代思想論	
		————————————————————————————————————
	生命倫理学丨‧Ⅱ	生命倫理学研究演習 ・
	生命科学 ・	生命科学研究演習 ・
	現代社会学丨・川	現代社会学研究演習 ・川
	社会政治思想論 ·	政治思想研究演習 ・
	理論社会学 ・	理論社会学・現代社会論研究演習I・Ⅱ
		比較人口学研究演習 ・川
	国際関係論 ・	国際関係論研究演習 ・川
	現代経済開発論 ・	現代経済開発論研究演習 ・
	国際金融経済動態論 ・	
	比較経済・労働問題論 ・	比較経済・労働問題論研究演習I・Ⅱ
	比較政治機構論Ⅰ・Ⅱ	SOLVERNI STANISH SOCIAL
	国際経済法 ・	 国際経済法研究演習 ·
	国際協力・平和構築論研究Ⅰ・Ⅱ	国際協力・平和構築論研究演習 ・
福祉社会・政策デザイン研究	比較政治・社会問題論 ・	比較政治・社会問題論研究演習 ・
	EU地域研究·比較環境政治 ·	E U地域研究·比較環境政治研究演習 ·
	北欧研究 ·	
サスティナビリティ学研究	環境学 ・	
	Environmental Law in Japan	SKOBASKIND BISCH 1
	ユーラシア研究 ・	 ユーラシア研究研究演習 ·
	ユーラシア研究I・Ⅱ	ユーラシア研究研究演習 ・
D-2011/10	北米研究(政治)Ⅰ・Ⅱ	
	北米研究(経済・社会) ・	
	中南米研究1・Ⅱ	 ラテンアメリカ研究研究演習 I · II
	日本外交史・中国地域研究	日本外交史・中国地域研究演習 ・
	朝鮮半島研究1・Ⅱ	
	中東研究	
	アフリカ研究	
	日本歴史論Ⅰ・Ⅱ	 日本歴史論研究演習 ·
	日本文化論 ・	日本文化論研究演習 ・
	漢字文化圏論 ・	漢字文化圏研究演習 ・
	比較文化・比較基層文化論 ・	上較文化·比較基層文化論研究演習 ·
	日本歴史論 ・	日本歴史論研究演習 ・
机化口本于则元	日本文化論 ・	日本文化論研究演習 ・
	漢字文化圏論丨・Ⅱ	漢字文化圏研究研究演習 ・
	日本外交史	日本外交史・中国地域研究演習 ・
	中国地域研究	国際执力 亚和捷第沙亚克泽羽! 11
	国際協力・平和構築論研究 ・	国際協力・平和構築論研究演習 ・
	日米比較文化論	日米比較文化論研究演習 ・
	比較文化・比較基層文化論 ・	比較文化・比較基層文化論研究演習 ・
	国際関係論 ・	国際関係論研究演習 ・
	社会思想 ・	社会思想研究演習 ・
	現代社会学 ・	現代社会学研究演習 ・
	現代経済開発論 ・	現代経済開発論研究演習I・Ⅱ

^{※「}福祉社会・政策デザイン研究」および「サスティナビリティ学研究」は、「地球社会論専攻」と「政策科学論専攻」に横断的に設置されている研究分野です。

政策科学論専攻		
研究分野	講義科目名	演習科目名
公共政策研究	政策科学I・Ⅱ	
	現代メディア論I・Ⅱ	現代メディア論研究演習I・Ⅱ
	行政組織論 ·	
	国際金融論 ·	
	産業組織論 ・	産業組織論研究演習I・Ⅱ
	比較憲法論丨・川	比較憲法論研究演習Ⅰ・Ⅱ
市民社会研究	市民生活関係法I・Ⅱ	市民生活関係法研究演習I・Ⅱ
	医事法論 ·	
	現代人権論 ・	現代人権論研究演習I・Ⅱ
	現代デモクラシー論	
	エスニシティ論	
人的資源エンパワメント研究	労使関係法I・Ⅱ	労使関係法研究演習 ・
	ジェンダー論 ・	ジェンダー論研究演習 ・
	企業論丨‧Ⅱ	企業論研究演習 ·
	福祉社会・政策デザイン調査I・Ⅱ	ソーシャルガバナンス研究演習 ・
	行政組織論 ·	行政過程論研究演習 ·
福祉社会・政策デザイン研究	福祉関係論丨・川	福祉関係論研究演習I・Ⅱ
	都市居住関係論 ・	都市居住関係論研究演習 ·
	福祉社会・政策デザイン調査I・Ⅱ	ソーシャルガバナンス研究演習 ・
サスティナビリティ学研究	環境経済学	環境経済学研究演習Ⅰ・Ⅱ
	Environmental Economics II	
	経済(産業)構造分析論 ・	産業連関分析論研究演習I・Ⅱ
都市社会・計画デザイン研究	政策情報論 ·	政策情報論研究演習 ·
	都市居住環境論 ·	都市居住環境論研究演習 ·
	都市・コミュニティデザイン論I・Ⅱ	都市・コミュニティデザイン論研究演習Ⅰ・Ⅱ
	ヴィジュアルリテラシーI・Ⅱ	空間映像論研究演習 ·
現代経営・企業研究	企業論 ·	企業論研究演習 ·
	政策情報論 ·	政策情報論研究演習 ·
	公共経営論Ⅰ・Ⅱ	
	国際経営論丨・川	国際経営論研究演習I・Ⅱ
	財務会計論I・Ⅱ	
	企業財務論 ・	企業財務論研究演習Ⅰ・Ⅱ
	企業法制研究I・Ⅱ	企業法制研究研究演習 ·
	市場経済論I・Ⅱ	市場経済論研究演習I・Ⅱ
	流通科学丨・Ⅱ	流通科学研究演習 ·

[%]「福祉社会・政策デザイン研究」および「サスティナビリティ学研究」は、「地球社会論専攻」と「政策科学論専攻」に横断的に設置さ れている研究分野です。)

阿牙久八巡	
	講義科目名
	世界人口論 ·
	統計的方法論Ⅰ・Ⅱ
	福祉社会·政策開発(自治体·NPO)
	近代中日語彙交流史ー中国文化を知る
	研究者のための中国語

奨学金制度

(参考: 2012 年度採用実績)

口木人学生					
	口	木	A.	异	生

	奨学金名	当	奨学金額 2学金額	出願資格	採用者数
	大隈記念奨学金【給付】	(年額)	400,000円	修士 1 · 2 年	2名
学	小野梓記念奨学金【給付】	(年額)	400,000円	修士 1 · 2 年	5名
内 奨 学	大学院博士後期課程若手研究者養成奨学金【給付】	(年額)	400,000円	博士後期 1 ~ 3 年	20名
金	創立 125 周年記念奨学金【給付】	(年額)	100,000円	修士 2 年 博士後期 1 ~ 3 年	9名
	指定寄付奨学金【給付·貸与】		って ジ異なります。	修士 1 · 2 年 博士後期 1 ~ 3 年	2名
学外奨	日本学生支援機構奨学金「第一種」【貸与】無利子 ※採用されると最短終業年限内で継続されます。	修士課程 (月額) 博士後期課 (月額)	88,000円	修士 1 · 2 年 博士後期 1 ~ 3 年	14名
奨 学 金 ※	日本学生支援機構奨学金「第二種」【貸与】有利子 ※希望する月額を選択。採用されると最短終業年限内で継続されます。		後期課程 50,000 円 80,000 円 100,000 円 130,000 円 150,000 円	修士 1 · 2 年 博士後期 1 ~ 3 年	4名

外国人留学生

	奨学金名		奨学金額	出願資格	採用者数
	私費外国人留学生授業料減免奨学金【給付】	年間授業料額の 50%,40%,20% の 3 種類		修士 1 · 2 年	7名
学	小野梓記念外国人留学生奨学金【給付】	(年額)	300,000円	修士 1 · 2 年 博士後期 1 ~ 3 年	2名
内 奨	創立 125 周年記念奨学金【給付】	(年額)	100,000円	修士 2 年 博士後期 1 ~ 3 年	1名
学金	大学院博士後期課程若手研究者奨学金【給付】	(年額)	400,000円	博士後期 1 ~ 3 年	1名
	頂新国際集団康師傅控股有限公司奨学金【給付】	(年額)	1,500,000円	中国国籍かつ 日本国外からの 修士入学希望者他	2名
学外奨	私費外国人留学生学習奨励費【給付】	修士·博士 (月額)	上後期課程 65,000 円	修士 1 · 2 年 博士後期 1 ~ 3 年	5名
学外奨学金※	文部科学省国費外国人留学生(国内採用)【給付】	(月額) (月額)	144,000 円 145,000 円	修士 1 年 博士後期 1 ~ 2 年	0名 0名

[※]学外奨学金には、上記の他にも、民間団体・地方公共団体奨学金があります。

日本国籍を有する学生を対象とした奨学金(在留資格が「永住者」「永住者の配偶者等」を含む)

早稲田大学独自の「学内奨学金」をはじめ、日本学生支援機構奨学金、民間団体奨学金などの「学外奨学金」があります。詳細については、 早稲田大学学生部奨学課発行の奨学金情報CHALLENGEを参考にしてください。

外国人留学生を対象とした奨学金(在留資格が「永住者」「永住者の配偶者等」以外の者)

早稲田大学独自の「学内奨学金」をはじめ、文部省関係奨学金、民間団体奨学金などの「学外奨学金」があります。詳細については、早稲田大学留学センター発行の留学生ハンドブックを参考にしてください。

授業時間帯と時間割/その他制度

(参考)

授業時間帯について

本研究科設置科目の授業時間帯は、月~金曜日の3~7時限と土曜日に行います。

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30~18:00	18:15~19:45	19:55 ~ 21:25

授業内容は本学"シラバス検索"をご参照ください。

https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php



教育訓練給付制度

2002年4月1日より大学院社会科学研究科修士課程政策科学論専攻は、「教育訓練給付制度指定講座」として厚生労働大臣より指定を受けています。この制度は、一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった方(離職者)が、講座指定期間中(2013年4月1日~2015年3月31日)に大学院社会科学研究科修士課程政策科学論専攻に正規生として入学し、その課程を修了した場合、修了後本人が公共職業安定所(ハローワーク)へ申請することにより教育訓練経費(入学金および授業料のみ対象)の20%に相当する額(但し、上限10万円)が教育訓練給付金として支給されるものです(支給要件期間に応じて金額が異なります)。

なお、雇用保険の状況により支給を受けられない場合もありますので、受給資格要件の詳細、あるいは申請手続についてはお近くのハローワークにお尋ねください。

学費・諸会費_(2013年度参考) / 志願者・合格者数_(2006~2013年度)

学費・諸会費[修士課程]

									(-12.13)
		学費			諸 会 費				
年度	納入期			費		学 会 費		学生健康増進互	合 計
			入学金	授業料	教育環境整備費	演習料	入会金	年会費	助会費
	入学時	200,000	268,500	60,000	1,500	1,000	500	1,500	533,000
初年度	秋学期	_	268,500	60,000	1,500	_	500	1,500	332,000
	計	200,000	537,000	120,000	3,000	1,000	1,000	3,000	865,000
	春学期	_	270,500	60,000	1,500	_	500	1,500	334,000
第2年度	秋学期	_	270,500	60,000	1,500	_	500	1,500	334,000
	計	_	541,000	120,000	3,000	_	1,000	3,000	668,000

学費・諸会費[修士後期課程]

		学費		諸会費					
年度	納入期				学 会 費		学生健康増進互	合 計	
		入学金	授業料	教育環境整備費	演習料	入会金	年会費	助会費	
	入学時	200,000	222,000	40,000	1,500	1,000	500	1,500	466,500
初年度	秋学期	_	222,000	40,000	1,500	_	500	1,500	265,500
	計	200,000	444,000	80,000	3,000	1,000	1,000	3,000	732,000
	春学期	_	223,500	40,000	1,500	_	500	1,500	267,000
第2年度	秋学期	_	223,500	40,000	1,500	_	500	1,500	267,000
	āt	_	447,000	80,000	3,000	_	1,000	3,000	534,000
第3年度	春学期	_	225,000	40,000	1,500	_	500	1,500	268,500
	秋学期	_	225,000	40,000	1,500	_	500	1,500	268,500
	āt	_	450,000	80,000	3,000	_	1,000	3,000	537,000

⁽注意) 1. 正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納め在籍した者が入学する場合は、入学金が免除となります。

志願者・合格者数[修士課程]

		一般	入試	社会人特別	川入試 ※ 1	外国学生	入試 ※ 2
		志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
2006年	秋季	41	9	10	4		
	春季	58	12	11	7	(2007年)	きより新設)
2007年	秋季	26	7	8	4	6	3
	春季	61	21	10	5	13	5
2008年	秋季	45	12	9	5	7	3
	春季	43	9	7	2	16	8
2009年	秋季	49	12	6	4	11	4
	春季	57	15	8	5	17	7
2010年	秋季	41	12	12	1	21	8
	春季	51	12	10	6	37	14
2011年	秋季	30	10	12	10	35	13
	春季	32	7	9	7	55	11
2012年	秋季	40	11	4	2	39	11
	春季	44	10	9	4	53	15
2013年	秋季	28	9	5	3	29	8

^{※1} 社会人特別入試の出願資格は入学時点で、学士の学位取得後3年以上を経過した者

志願者・合格者数[博士後期課程]

	一般	入試	外国学生入試 ※ 3		
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	
2005年	30	14			
2006年	47 21 (20		(2007年度	7年度より新設)	
2007年	54	17	0	0	
2008年	48	16	0	0	
2009年	42	22	3	3	
2010年	52	23	2	2	
2011年	40	18	4	4	
2012年	26	17	3	3	

^{※3} 外国学生入試には、「外国人留学生特別選考」を含む。

^{2.} 本大学社会科学部卒業生および大学院社会科学研究科修士課程修了者は、学会入会金は不要です。

^{※ 2} 外国学生入試には、「外国人留学生特別選考」を含む。

学位論文題目 (一部)

科目名付クラス名	論文題目
社会哲学研究指導	インターネット・コミュニティの形成について 人間と自然との共生の一考察
生命倫理学研究指導	性欲の本質とは何か
現代社会学研究指導	中国における「和僑」についての研究 クルーズ乗船客の観光行動に関する研究
理論社会学・現代社会論研究指導	デュルケム道徳論における自由と自律等の概念について
比較人口学研究指導	Internet as a new tool for partner hunting
現代経済開発論研究指導	中国における農工間労働移動 インドにおける知識集約的産業の発展要因
比較文化・比較基層文化論研究指導	ルソーにおける自伝の問題
国際協力・平和構築論研究指導	人道的介入の阻害要因に関する考察
環境法政策研究指導	都市緑地創出のための法政策 土壌汚染における保険に関する一考察
ラテンアメリカ研究研究指導	ペルーにおける先住民運動と資源開発
日本外交史·中国地域研究研究指導	1969 ~ 72 年における日本の対中認識 中国の東北地方における「満州国」時代の建物について 中国低所得者の現状認識と行動様式についての一考察 民国時期における都市社会の発展と上海女性について
日本歴史論研究指導	明治中期の在村雑誌読者 真崎甚三郎の国体観 大正期以降の平沼騏一郎の研究
日本文化論研究指導	菅江真澄の都鄙認識
漢字文化圏研究研究指導	アイヌ語地名・人名における漢字表記 近代における日中法律の交流とその用語の伝播
現代メディア論研究指導	メディア融合モデルの研究 日本の対外文化政策の諸層
比較憲法論研究指導	合衆国憲法修正1条にいう国教樹立禁止条項と「中立性」の概念 教育における機会均等と選択
市民生活関係法研究指導	リバースモーゲージと「個人信託」の併用・融合についての考察
現代人権論研究指導	外国人の公務就任権 日本における外国移住女性の DV 問題への考察
ジェンダー論研究指導	テレワークの実態とワークライフバランス
企業論研究指導	日系企業の中国市場販売現地化課題に関する研究 日本の多国籍企業における海外帰任者の人材管理 日本へ進出している中国企業の組織管理体制に関する研究 日本企業における外国人留学生の雇用に関する研究 企業における人的資源管理に関する比較研究 中国における民営学校に関する研究
福祉関係論研究指導	介護保険制度の形成過程に関する日韓比較研究
都市居住環境論研究指導	都市再生政策の国際比較研究 実在的空間の計画手法に関する研究
環境経済学研究指導	中国の木材市場と違法木材問題に関する研究
国際経営論研究指導	発展途上国における人口ボーナスの終焉と海外直接投資の受入れに関する一考察 中国進出におけるに日系企業の人的資源管理について 中国企業のグローバル・マーケティング戦略に関する一考察 自動車部品メーカーの海外進出に与えるモジュール化の影響 多国籍企業のナレッジ・マネジメントに関する一考察

博士論文	1000
研究指導名	論文題目
社会哲学研究指導 (博士)	コミュニティの再創生に関する考察
財政論研究指導(博士)	ヘドニック・アプローチによる地域住民の選好の推定
現代人権論研究指導 (博士)	多極競合的人権理論の可能性
福祉関係論研究指導 (博士)	当事者性の付与と引き受けに関する研究
国際関係論研究指導 (博士)	戦後沖縄における帰属論争と民族意識
日本研究:日本歴史論研究指導(博士)	奥宮慥斎の研究
社会哲学研究指導 (博士)	軍隊の歴史的展開と国家および社会との関係に関する考察
日本研究:日本歴史論研究指導(博士)	南方熊楠と近代日本
生命倫理学研究指導 (博士)	「中間」と〈中間〉
日本研究:日本文化論研究指導(博士)	日本における韓流現象と韓国の韓流に対する認識
国際経営論研究指導 (博士)	リソース・ベースド・ビューに基づく企業国際化に関する考察

修士学生の出身大学と進路先



進路先

出版業 卸売業 小売業 情報サービス業 専門サービス業 非営利団体 地方公務員 等

「現代日本学プログラム」について

グローバル化時代に適合したプログラム

"日本社会に精通し、国際化時代に適応できる幅広い教養と卓越したコミュニケーション能力をもち、 グローバルに活躍できる人材を育成する"



第二次世界大戦後の日本は、人類がかつて経験したことのないさまざまな問題を一足早く経験してきました。大空襲・原爆投下による廃墟からの復興、高度経済成長、環境破壊の克服、世界第2位の経済大国への成長、バブル経済の崩壊、少子・高齢化の急展開、地震・津波・原発事故による未曾有の災害……。

日本列島で生活している人びとは、これらの未知の課題を克服するために、従来の学問体系に捉われることなく、失敗と成功を繰り返しながら、全く新しい実践的英知を蓄積してきました。このような知の集大成を「日本モデル」と称するならば、このモデルを学際的に探究し、人類共有の財産として総括し、次の世代に受け継がせることこそが、早稲田大学社会科学研究科に課せられた使命と言えるでしょう。

2012年9月より社会科学研究科に開講された「現代日本学プログラム」(英語による学位プログラム)では、従来の人文科学的アプローチによる日本学とは異なり、地球社会、国際関係、持続可能性などの研究領域を統合した社会科学的要素の強い新しい日本学を目指し、地球上の複雑な問題に対処する方法論を構築していきます。この斬新な学問体系を作り上げるなかで、日本社会に精通し、国際化時代に適応できる幅広い教養と卓越したコミュニケーション能力をもち、グローバルに活躍できる人材を育成する環境を提供してまいります。

現代日本学プログラム 研究指導一覧

領域	研究指導	指導教員
Cluster 1:	International Relations	多賀秀敏 教授
Japan in the World	International Cooperation and Peacebuliding	山田 満 教授
Cluster 2:	Comparative Study of Basic Cultural Types	池田 雅之 教授
Society and Culture	Comparative Culture: Japan and the United States	

現代日本学プログラム 講義科目一覧

講義科目名

International Relations	Environmental Law in Japan
International Cooperation and Peacebuilding	Environmental Economics II
Japan in World Development: Regionalism, Globalism and Post-colonialism	Global Food and Resource Issues
Comparative Study of Basic Cultural Types	World Population II: International Migration
Topics in Contemporary Japanese Studies	Contemporary Economic History of Japan
Politics and Government of Contemporary Japan	Japanese Economy: Current Structural Issues
Transnational History of Modern Japan	Japanese Society and Culture: Social Institutions and the Life Course

現代日本学プログラム 演習科目一覧

演習科目名

International Relations I-II	Comparative Study of Basic Cultural Types I-II
International Cooperation and Peacebuilding I-II	Comparative Culture: Japan and the United States I-II

WASEDA UNIVERSITY Graduate School of Social Sciences

Integrating Theory & Practice = SOLUTION



CONTENTS

- 18 Dean's Message
- 20 Overview of the Graduate School of Social Sciences
- 22 Program and Graduation Requirements
- 23 List of Research Majors
- 24 List of Masters Program Courses
- 28 Scholarships
- **30** Facts:

Time Table

Enrollment Costs for Academic Year 2013 [Reference] Result of Entrance Examination

32 English-based Degree Program [CJSP]



Integrating Theory and Practice:

Fostering Researchers and Practitioners

Contemporary society has become more complex, and along with the need of higher expertise and wider knowledge, education at the graduate level has become more important. Although until recently the primary objective of graduate education had been to foster researchers, in recent years it has evolved into fostering practitioners as well. However, in many cases, the objective is to specialize in one field or the other, or perhaps the curriculums emphasize one area over the other.

One of the basic principles of our graduate school is to foster researchers and practitioners with a focus on the interaction of theory and practice. Since its foundation, the graduate school has opened its doors widely to fresh graduates and the members of society as well by offering lectures, seminars, etc. through a system of learning together. In recent years, international students from Asian countries have increased, and our graduate school has one of the highest proportions of international students within Waseda. In addition, in 2012 the English-based Contemporary Japanese Studies Program was launched, and the diversification of graduate students is progressing further.

For the interaction of theory and practice, it is indispensable that people with a variety of careers and goals study together, and that research progresses with a continuous feedback between theory and philosophy and social reality.

In this sense, the presence of graduate students with work experiences as members of society brings discussions that sometimes tend to become ideological and philosophical back to reality. On the other hand, fresh graduates' reason and sensitivity, which are not bounded by the social reality, may provide members of society with a good source of inspiration. In addition, international students are able to provide a different perspective from abroad. In this way, by blending various perspectives and intentions, graduate students and faculty will freshly become aware of many things, and through learning together with persons from diverse backgrounds, the effectiveness of education is enhanced.

Social Sciences as a Comprehensive and Interdisciplinary Program

The second basic principle of our graduate school is comprehensiveness and interdisciplinarity. Because the problems and phenomena that contemporary society is facing are very complex, an analysis from a



multilateral perspective is essential. To achieve this, research guidance and lectures are carried out by faculty with a wide expertise in the social sciences, the humanities, and the natural sciences. Although as a requirement for the completion of the master's program students have to take lecture courses, the freedom in the selection of those courses is one of the features of our graduate school. The Graduate School of Social Sciences offers two majors: the Major in Global Society and the Major in Policy Sciences (which are divided into eleven research areas) but this is just a guideline. Rather, for having their own complex perspective, students are required to go beyond the limits of their major and field, and to select their own study plan in order to build an original perspective. In doing so, the tendency of being constrained in the depths of one specialty is avoided, and the research becomes interdisciplinary, which is another feature of our graduate school.

Fostering New Types of Researchers and Practitioners

Many of our graduates have obtained MA and Ph.D. degrees, and are actively taking part in society, either as researchers with a new perspective or as practitioners with a high level of knowledge and a wide expertise. In the future, people active in global venues will increase,

including international students. I think the two basic principles of the Graduate School of Social Sciences meet the demands of contemporary world, and can therefore contribute to society. In addition, the system responds to the various students' needs by offering day and night classes, so studying becomes possible for members of society already in the workforce as well as other students who want to take day courses.

We will continue with our commitment to being a venue for education and research where fresh graduates, international students, and the members of society can study together and push forward towards building new knowledge.



Professor Keiko Hata

Dean of the Graduate School of Social Sciences

Overview of the Graduate School of Social Sciences

Fostering Researchers and Practitioners: Integrating Theory and Practice

In addition to the traditional model of a graduate program that mainly focuses on researcher development, professional graduate schools are now being set up with direct connections to real-world businesses. Moreover, graduate programs are also being created with the main purpose of obtaining national certification. Therefore, we have seen a remarkable diversification of graduate schools in the last few years.

In response to the current situation, the Graduate School of Social Sciences has assembled a diverse range of research staff. Our goal is to develop not only researchers with a new interdisciplinary perspective, but also practitioners that have a high level of specialized knowledge.

One of the advantages of this graduate program is that it actively recruits not only regular graduate students but also foreign students, and people already in the working world, by providing evening classes as well.

Making Social Sciences Comprehensive and Interdisciplinary

At the Graduate School of Social Sciences, a diverse staff provide research guidance to students. These instructors have been carrying out specialized research in graduate schools in the social, cultural, and natural sciences, otherwise classified as the sciences and humanities. The aim of the graduate school is to make its social science program comprehensive and interdisciplinary, as a basic philosophy.

In order to realize this philosophy, the Graduate School of Social Sciences has brought together a wide variety of specialists, and is aiming to develop brilliant researchers and practitioners, through research guidance.

Evening graduate school classes offered to accommodate working people

80CIETY/WORKFORCE

Working/non-traditional students

Enrollment of working people in graduate programs and/ r continuing education courses (omnibus coursework)

Student field survey

RESEARCH

Individual/joint studies Basic/advanced studies Theoretical/practical studies

EDUCATION

Acquisition of practical and specialized knowledge and skills

> Theory construction Liberal arts

Organization of the Graduate School of Social Sciences

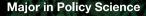
Major in Global Society

Social Science

Finding comprehensive multidimensional approaches to various complicated issues, and constructing new theories for these problem areas by investigating the current reality of increasing complexity.

International Studies

This research area transforms the traditional field of international studies that emphasized relationships between nations, into one with a more global perspective. Students will pursue theoretical research and opportunities for practical application in the global community, and advance comprehensive social research from a worldwide perspective.



Public Policy

Researching actual policies, specific policy measures, and ideal policy formation in the public sector of modern society. Looking at policy formation, public administrative organization, healthcare, public finance processes, and the Road Traffic Law and other laws as basic rules civic life.

Community Affairs

Reinvestigating the legal and political sides of civil society. Basically, students will research public consensus building and policy measures from the perspective of theories and systems, by considering ideal systems for civic life.

Human Resource Empowerment Studies

In a global era, it is necessary to address issues such as employee hiring, placement, development, and outsourcing, in companies, local government agencies, NPOs, and other organizations. Students will analyze a wide range of problems, while looking at specific examples rooted in local communities whenever possible.

Policy Design for Welfare Society

One of the major issues in the 21st century is the redesigning of the welfare society. Based on international comparative research from theoretical and practical perspectives, students will research actual policies and system creation for the rebuilding of the welfare society.

The aim is to foster practitioners with the theoretical perspective of a researcher combined with a real-world outlook. Interdisciplinary research supervision will be provided for this field, based on guidance by a group of faculty members.

Sustainability Research

"Sustainability" is a keyword in today's discussions of environmental issues. We promote the development of human resources capable of pursuing the theoretical, practical, and interdisciplinary approaches that are needed to arrive at solutions of tomorrow's environmental problems. To this end, guidance is provided by a group of teachers who have a background in a wide range of academic subjects (in both natural and social sciences). Moreover whenever necessary, we receive cooperation from specialists from other fields.

Area Studies

Researching new models for relations between countries, and between countries and regions, from a transnational perspective.

The research will target regions where new development is now being seen, in the areas of economics, politics, and social welfare.

Contemporary Japanese Studies

The newly developed program integrates humanities and social science perspectives on contemporary Japan from graduate researchers and specialists who are able to draw on a broad understanding of Japan.

Urban Planning and Design Studies

Urban planning and design in developed societies must address the restructuring of social systems in urban communities not only from social, but also cultural and environmental perspectives.

The program focuses on interdisciplinary and applied research for urban policymaking, local administration, and urban planning from practical and theoretical perspectives.

Management and Industry

Researching different interests that make up a company, and looking at the specific problems arising from this. The students will investigate problem resolution methods, and come up with policy recommendations for management.

^{* &}quot;Policy Design for Welfare Society" and "Sustainability Science" are interdisciplinary area covering both the Global Society and Policy Science Majors.

Program and Graduation Requirements

Master's Program

(1) Curriculum

The contents of this program are as follows:

Cor	itent
Master's thesis	Seminars
Research guidance	Lectures

(2) Program and graduation requirements

In order to graduate, the student must remain in this graduate school for two or more years, receive the necessary research guidance, and earn at least 32 credits from the following prescribed courses. The student must also submit a Master's thesis, and pass the final examination.

Туре	Number of Credits
Seminars I · II	8 credits (2 credits × 4 subjects)
Lectures	24 credits (2 credits × 12 subjects)
Total	32 credits

^{*} For the lecture courses, a student may select courses from either the Global Society or Policy Science majors, and not just from the student's own major. The student may also earn credits from other institutions or programs.

Although there is no limit on the number of units that may be taken each year, the following table shows the standard program.

Academic Year	Courses		Total
Academic real	Seminars	Lectures	
First year	4 credits (Seminar I)	16 to 20 credits	20 to 24 credits
Second year	4 credits (Seminar II)	4 to 8 credits	8 to 12 credits
Total	8 credits	24 credits	32 credits

(3) Degree type

A graduate of this program will be conferred with a M.A. in Social Sciences.

Schedule from Admission to Graduation

First	Spring semester (time of admission/application)	Submission of Master's thesis research plan
year	Fall semester (early February)	Submission of Master's thesis progress report
	Spring semester (early May)	Submission of Master's thesis plan
	Spring semester (early June)	Determination of the review committee (assistant committee)
Second year	Fall semester (late October)	Research presentation
	Fall semester (early January)	Master's thesis submission
	Fall semester (late January)	Oral exam
	Fall semester (late March)	Graduation (degree conferment)

Doctoral Program

(1) Graduation requirements

In order to graduate from the doctoral program, the student must remain in this graduate school for three or more years, and receive the necessary research guidance from the academic advisor for thesis preparation. The student must also pass the doctoral thesis review, and the final examination.

Successful candidates will be conferred with a Ph.D. in Social Sciences.

*Shortening the graduation term of the Doctoral program is possible under the paragraph 1 of provision 14 of the graduate school regulations.

(2) Program

Although the doctoral program does not require any courses to be taken, the student must receive guidance from the academic advisor, and carry out his or her own research activities. Therefore, sufficient time must be allotted for research and to complete the doctoral thesis.

However, with the permission of the academic advisor, the student may take lectures from the Master's program, if necessary for research purposes.

The following guidance process takes effect starting in the 2008 academic year. The goal is to promote doctorate conferment within the standard three-year program period.

In principle, all students will perform thesis research, writing, and application based on the following model.

Collaboration between faculty, traditional students and working people



Joint faculty-graduate student seminars

Working/
non-traditional
graduate students

Non-Japanese
graduate students

Spring Semester Students

Shillig	Semester Students	
First year	April (time of admission application)	Submission of doctoral program research plan
	October	Submission of doctoral thesis plan
	November	Determination of assistant academic advisor
Second year	Whenever necessary	Reporting to the joint seminar of graduate students and instructors
	Mid October	Progress report for doctoral thesis preparation
	Around June	Interim presentation
	By the end of July	Submission of the doctoral thesis
Third	October	Preliminary review report, acceptance review, and establishment of the review committee
year	During January	Hearing and oral exam
	Late January	Main review completion
	February	Results of the steering committee review and final review
	March	Degree conferment

Fall Se	mester Students		
	September (time of admission application)	Submission of doctoral program research plan	
First year	Mid April	Submission of doctoral thesis plan	
	May	Determination of assistant academic advisor	
Second	Whenever necessary	Reporting to the joint seminar of graduate students and instructors	
year	Mid April	Progress report for doctoral thesis preparation	
	Around November	Interim presentation	
	At the end of January	Submission of the doctoral thesis	
	February March	Preliminary review report, acceptance review, and establishment of the review committee	
		Review begins	
T1	June	Hearing and oral exam	
Third year	Late June	Main review completion	
yeai	July	Results of the steering committee review and final review However, if the number of thesis for review increase, a new steering committee will be established.	
	September	Degree conferment	



List of Research Majors

	Field of Research	Instructor	
Social Science	Social Thought	Professor KOGA, Katsujiro Doctor of Economics (Waseda Univ.)	
	History of Science	Professor KOYAMA, Keita Doctor of Science (Waseda Univ.)	
	Ethics of Life	Professor NASU, Seigen	
	Life Science	Professor WAKO, Hiroshi Doctor of Science (Waseda Univ.)	
	Contemporary Sociology	Professor NARITOMI, Masanobu	
	Political Thought	Professor ATSUMI, Keiichiro Doctor of Political Science (Waseda Univ.)	
	Theoretical Sociology and Theory of Contemporary Society	Associate Professor SUTO, Shinya	
	Comparative Demography	Professor KOJIMA, Hiroshi Ph.D. (Brown University)	
nternational Studies	International Relations	Professor TAGA, Hidetoshi	
	Studies on Economics Development	Professor TRAN, Van Tho Doctor of Economics (Hitotsubashi Univ.)	
	International Economic Law	Professor FUKUNAGA, Yuka	
	International Cooperation and Peacebuilding	Professor YAMADA, Mitsuru Doctor of Political Sciences (Kobe Univ.)	
Sustainability	Environmental Law and Policy	Professor KUROKAWA, Satoshi Doctor of Law (Kyoto Univ.)	
Science	Eurasia Studies	Professor GEMMA, Masahiko Ph.D. (Minnesota Univ.)	
Area Studies	Eurasia Studies	Professor GEMMA, Masahiko Ph.D. (Minnesota Univ.)	
	Latin American Studies	Professor HATA, Keiko	
	The Diplomatic History of Japan and Chinese Area Studies	Professor LIU, Jie Doctor of Literature (Tokyo Univ.)	
	Japanese History*	Professor SHIMA, Yoshitaka Doctor of Law (Kyoto Univ.)	
	Japanese Culture*	Professor NAITO, Akira	
	Research on the Cultural Sphere of Chinese Characters*	Professor SASAHARA, Hiroyuki Doctor of Literature (Waseda Univ.)	
	Comparative Study of Basic Cultural Types*	Professor IKEDA, Masayuki	
Contemporary	Japanese History*	Professor SHIMA, Yoshitaka Doctor of Law (Kyoto Univ.)	
Japanese Studies	Japanese Culture*	Professor NAITO, Akira	
	Studies on Hanzi Culture Area	Professor SASAHARA, Hiroyuki Doctor of Literature (Waseda Univ.)	
	The Diplomatic History of Japan and Chinese Area Studies	Professor LIU, Jie Doctor of Literature (Tokyo Univ.)	
	Studies on International Cooperation and Peacebuilding*	Professor YAMADA, Mitsuru Doctor of Political Sciences (Kobe Univ.)	
	Studies in Comparative Culture: Japan and America	Professor COGAN, Thomas Joseph Ph.D. (Hawaii Univ.)	
	Comparative Basic Culture*	Professor IKEDA, Masayuki	
	International Relations*	Professor TAGA, Hidetoshi	
	Social Thought *	Professor KOGA, Katsujiro Doctor of Economics (Waseda Univ.)	
	Contemporary Sociology*	Professor NARITOMI, Masanobu	
	Studies on Economic Development*	Professor TRAN, Van Tho Doctor of Economics (Hitotsubashi Univ.)	

^{* &}quot;Policy Design for Welfare Society" and "Sustainability Science" are interdisciplinary area covering both the Global Society and Policy Science majors.

cy Science		
Field of Research	Instructor	
Media Studies	Professor ARIMA, Tetsuo	
Administrative Process *	Professor TSUJI, Takao	
Industrial Regulation	Professor DOMON, Koji	
Comparative Constitutional Study	Professor NISHIHARA, Hiroshi Doctor of Law (Waseda Univ.)	
Community Relations Law	Professor ONISHI, Yasuhiro Doctor of Law (Waseda Univ.)	
Human Rights	Professor GOTOH, Mitsuo	
Industrial Relations Law	Professor SHIMIZU, Satoshi	
Gender and Work	Professor OMORI, Maki Doctor of Economics (Keio Univ.)	
Business Management *	Professor INOUE, Tadashi	
Studies on Social Governance *	Professor SHINODA, Toru	
Administrative Process *	Professor TSUJI, Takao	
Social Welfare	Professor HISATSUKA, Junichi	
Housing Policy and Community Development*	Professor SOHDA, Osamu Doctor of Engineering (Waseda Univ.)	
Studies on Social Governance*	Professor SHINODA, Toru	
Political Information Science*	Professor HIJIKATA, Masao	
Theory of Urban Living Environment*	Professor SODA, Osamu Doctor of Engineering (Waseda Univ.)	
Urban and Community Design Studies	Professor UZUKI, Morio Doctor of Engineering (Waseda Univ.)	
Space and Image Studies	Professor SATO, Yoichi Doctor of Engineering (Waseda Univ.)	
Environmental Economics	Professor AKAO, Ken-ichi Doctor of Agricultural Science (Kyoto Univ.)	
Input - Output Analysis	Professor WASHIZU, Ayu Doctor of Commerce (Keio Univ.)	
Business Management *	Professor INOUE, Tadashi	
Information Science on Policy Making Process*	Professor HIJIKATA, Masao	
International Business	Professor HASEGAWA, Shinji Doctor of Business Administration (Pantheon Sorbonne)	
Corporate Finance	Professor KATSURAYAMA, Yasunori Doctor of Engineering (Waseda Univ.)	
Economics of Markets	Professor TODA, Manabu Ph.D. (Rochester Univ.)	
Distribution Systems (Master's) Distribution Systems (Doctoral)	Professor NOGUCHI, Tomoo	
Corporation Law Advanced	Professor KAWASHIMA, Izumi	
	Field of Research Media Studies Administrative Process * Industrial Regulation Comparative Constitutional Study Community Relations Law Human Rights Industrial Relations Law Gender and Work Business Management * Studies on Social Governance * Administrative Process * Social Welfare Housing Policy and Community Development* Studies on Social Governance* Political Information Science* Theory of Urban Living Environment* Urban and Community Design Studies Space and Image Studies Environmental Economics Input - Output Analysis Business Management * Information Science on Policy Making Process* International Business Corporate Finance Economics of Markets Distribution Systems (Master's) Distribution Systems (Doctoral)	

^{*} Lecture courses shown with asterisks are given in multiple research fields.

List of Masters Program Courses

ield of Research	Lecture courses	Seminar courses
Social Science	Social Philosophy I · II	Social Philosophy I · II
Social Science	Social Norms I · II	Social Filliosophy 1. II
	Social Thought I · II	
	Contemporary Western Thought	Social Hought I'll
	History of Science I · II	History of Science I · II
	Ethics of Life I · II	Ethics of Life I · II
	Life Science I · II	Life Science I · II
	Contemporary Sociology I · II	Contemporary Sociology I · II
	Historical Studies on Socio-Political Ideas I · II	Political Thought I · II
	Theoretical Sociology I · I	Theoretical Sociology and Theory of Contemporary Society I · I
		Comparative Demography I · II
ternational tudies	International Relations I · II	International Relations I · II
ituules	Studies on Economics Development I · II	Studies on Economics Development I · II
	Dynamics of International Finance I · II	
	Comparative Economics and Labor Relations I · II	Comparative Economics and Labor Relations I · II
	Comparative Government and Opposition I · II	
	International Economic Law I · II	International Economic Law I · II
	International Cooperation and Peacebuilding I · II	International Cooperation and Peacebuilding I · II
Policy Design for Welfare Society	Comparative Politics and Social Analysis I · II	Comparative Politics and Social Analysis I · II
	European Studies and Comparative Environmental Politics I · II	European Studies and Comparative Environmental Politics I \cdot II
	Scandinavia I · II	
ustainability	Environmental Studies I · II	Environmental Law and Policy I · II
Science	Environmental Law in Japan	
	Eurasia I · II	Eurasia I · II
rea Studies	Eurasia I · II	Eurasia I · II
	North American Studies (Politics and Government) I · II	
	North American Studies (Economics and Social Issues) I · II	
	Latin America I · II	Latin American Studies I · II
	The Diplomatic History of Japan	The Diplomatic History of Japan and Chinese Area Studies I · II
	Chinese Area Studies	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	The Korean Peninsula Studies I · II	
	Middle East Studies	
	Africa Studies	
	Japanese History I · II	Japanese History I · II
	Japanese Culture I · II	Japanese Culture I · II
	Studies on Kanji Culture area I · II	Research on the Cultural Sphere of Chinese Characters I · II
	Comparative Basic Culture I · II	Comparative Basic Culture I · II
ontemporary	Japanese History I · II	Japanese History I · II
apanese Studies	Japanese Culture I · II	Japanese Culture I · II
	Studies on Hanzi Culture Area	Research on the Cultural Sphere of Chinese Characters I · II
	The Diplomatic History of Japan	The Diplomatic History of Japan and Chinese Area Studies I · II
	Chinese Area Studies	The Dipionatic History of Japan and Chinese Area Studies 1. II
		International Cooperation and December Illians (Consing comparts)
	Studies on International Cooperation and Peacebuilding I · II	International Cooperation and Peacebuilding I(spring semester)
	Studies in Comparative Culture: Japan and America	Japan-U.S. Cultural Studies I · II
	Comparative Basic Culture I · II	Comparative Basic Culture I · II
	International Relations I · II	International Relations I · II
	Social Thought I · II	Social Thought I · II
	Contemporary Sociology I · II	Contemporary Sociology I · II
	Studies on Economic Development I · II	Studies on Economic Development I · II

Note: "Policy Design for Welfare Society" and "Sustainability Science" are interdisciplinary area covering both the Global Society and Policy Science majors.

Field of Research	Lecture courses	Seminar courses
Public Policies	Policy Science I · II	octrimal courses
ablic Folicies	Media Studies I · II	Media Studies I · II
	Public Administration I · II	Administrative Process I · II
	International Finance I · II	7 drillistrative i rocess i il
	Industrial Organization I · II	Industrial Organization I · II
	Comparative Constitutional Study I · II	Comparative Constitutional Study I · II
Community Affairs	Community Relations Law I · II	Community Relations Law I · II
John Harney / Ham J	Medical Law I · II	Community (Countries Edw)
	Human Rights I · II	Human Rights I · II
	Modern Theories of Democracy	
	Political Economy of Ethnicity	
Human Resources	Industrial Relations Law I · II	Industrial Relations Law I · II
	Gender I · II	Gender I · II
	Business Management I · II	Business Management I · II
	Research on Policy Design for Welfare Society I · II	Studies on Social Governance I · II
	Public Administration I · II	Administrative Process I · II
Policy Design for Welfare Society	Social Welfare I · II	Social Welfare I · II
or Welfare Society	Theory of Urban Living I · II	Theory of Urban Living I · II
	Research on Policy Design for Welfare Society I · II	Studies on Social Governance I · II
Sustainability	Environmental Economics I	Environmental Economics I · II
Science	Environmental Economics II	
	Analysis of Economic Structure I · II	Input – Output Analysis I · II
Jrban Planning and	Political Information Science I · II	Political Information Science I · II
Design Studies	Urban Environment I · II	Theory of Urban Living Environment I · II
	Urban and Community Design Studies I · II	Urban and Community Design Studies I · II
	Visual Literacy I · II	Space and Image Studies I · II
Management and	Business Management I · II	Business Management I · II
ndustry	Political Information Science I · II	Political Information Science I · II
	Public Management I · II	
	International Management I · II	International Management I · II
	Financial Accounting and Reporting I · II	
	Corporate Finance I · II	Corporate Finance I · II
	Corporation Law Advanced I · II	Corporation Law Advanced I · II
	Economics of Markets I · II	Economics of Markets I · II
	Distribution Systems I · II	Distribution Systems I · II

Note: "Policy Design for Welfare Society" and "Sustainability Science" are interdisciplinary area covering both the Global Society and Policy Science majors.

Courses common to both majors Lecture courses World Population I · II Statistical Method I · II Policy Innovation for Welfare Society (NPO) Modern History of Sino-Japanese Language Interaction-Understanding Chinese Culture Academic Chinese for Researchers



Scholarsh	ips for Japanese Stu	dents		
	Name of Scholarship	Content	Qualifications	No. of Recipients
	Okuma Memorial Scholarship	¥400,000/year	1st·2nd year Master's Course	2
	Ono Azusa Memorial Scholarship	¥400,000/year	1st·2nd year Master's Course	5
University	Young Doctorate Course Scholarship	¥400,000/year	1st ~3rd year Doctorate Course	20
Scholarships	125th Anniversary Scholarshin ¥100 000/year L	2nd year Master's Course 1st~3rd year Doctorate Course	9	
	Designated contributions (scholarships and loans)	Amount depends on scholarship	1st·2nd year Master's Course 1st~3rd year Doctorate Course	2
Non-University Scholarships ※	Japan Student Service Organization First Category - non-interest loan Note: The decided amount will be paid until the date of graduation.	Master's Course ¥50,000/¥88,000/month Doctorate Course ¥80,000/¥122,000/month	1st∙2nd year Master's Course 1st~3rd year Doctorate Course	14
	Japan Student Service Organization Second Category - interest- bearing loan Note: Please pick the starting month. The decided amount will be paid until the date of graduation.	Select the desired amount from \$50,000/\$80,000/ \$100,000/\$130,000/ \$150,000/month	1st·2nd year Master's Course 1st~3rd year Doctorate Course	4

Scholarships for Japanese Students

(including students of foreign nationality who presently reside in Japan whose visa eligibility is that of a "Permanent Resident" or "Spouse or Child of Permanent Resident".)

Waseda University offers various forms of financial assistance including University scholarships as well as non-University scholarships such as those by the Japan Student Service Organization and non-governmental organizations. For further information on financial aid, please refer to "CHALLENGE", a scholarship booklet published by the Scholarships and Financial Assistance Section, Student Affaris Division, Waseda University.

Training and Education Benefits System

On April 1, 2002, the Policy Science Department of the Master's Program at the Graduate School of Social Sciences received course designation under the Training and Education Benefits System of the Minister of Health, Labour and Welfare.

Under this system, general workers (employed or unemployed) currently or previously covered by unemployment insurance that meet certain conditions may be admitted as regular students to the Policy Science Department of the Master's Program at the Graduate School of Social Sciences during the course designation period of April 1, 2013 to March 31, 2015. If the student completes the program 20% of the training and education costs (admission fees and tuition only) will be paid as training and education benefits (up to a limit of 100,000 yen), based on application to the public employment security office (Hello Work) by the student after graduation. (Benefits will vary depending on the payment requirement period.)

Applicants may not be eligible for benefits depending on their unemployment insurance status. For more information on eligibility requirements and application procedures, contact the nearest Hello Work office.

	Name of Scholarship	Content	Qualifications	No. of Recipients
University Scholarships	Tuition Assistance Program for Privately -Financed International Students	Covering 50%, 40%, or 20% of annual tuition (3 types)	1st-2nd year Master's Course	7
	Ono Azusa Memorial Scholarship	¥300,000/year	1st·2nd year Master's Course 1st~3rd year Doctorate Course	2
	125th Anniversary Scholarship	¥100,000/year	2nd year Master's Course 1st~3rdyear Doctorate Course	1
	Young Doctorate Course Scholarship	¥400,000/year	1st~3rd year Doctorate Course	1
	Ting Hsin International Group, Tingyi (Cayman Islands) Holding Corporation scholarship	¥1,500,000/year	Master's Course (Chinese nationals, Applicants from outside of Japan)	2
Non-University Scholarships ※	Ministry of Education Honors Scholarship	¥65,000/month	1st-2nd year Master's Course 1st~3rd year Doctorate Course	5
	Japanese Government Scholarship for	¥144,000/month	1st year Master's Course	0
	International Students Accepted in Japan	¥145,000/month	1st~2nd year Doctorate Course	0

^{*} In addition to the above, there are also scholarships from private organizations and local public authorities.

Scholarships for Foreign Students

(except students of foreign nationality who presently reside in Japan and whose visa eligibility is that of a "Permanent Resident" or "Spouse or Child of Permanent Resident".)

For further information on financial aid, please refer to the "International Students' Handbook", a scholarship booklet published by the Center for International Education, Waseda University.





The courses listed in this schedule are for periods 3-7 for Monday through Friday, and all periods on Saturday.

Period	1	2	3	4	5	6	7
Time	9:00~10:30	10 : 40 ~12 : 10	13:00~14:30	14 : 45 ~16 : 15	16:30~18:00	18:15~19:45	19:55~21:25

For lesson schedule and content, please refer to the below syllabus link; https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php

Enrollment Costs for Academic Year 2012 (Reference)

Master's Program (Japanese Yen)

Academic Year	Payment Period	School Tuition			Membership Fees				
			SCHOOL FUILION			Academic Society Fee		Health	Total
		Admission Fee	Tuition	Maintenance Fee	Seminar Fee	Admission Fee	Annual Fee	Insurance	
First Year	Upon Admission	200,000	268,500	60,000	1,500	1,000	500	1,500	533,000
	Fall semester	_	268,500	60,000	1,500	_	500	1,500	332,000
	Total	200,000	537,000	120,000	3,000	1,000	1,000	3,000	865,000
Second Year	Spring semester	_	270,500	60,000	1,500	_	500	1,500	334,000
	Fall semester	_	270,500	60,000	1,500	_	500	1,500	334,000
	Total	_	541,000	120,000	3,000	_	1,000	3,000	668,000

Doctoral Program (Japanese Yen)

Academic Year	Payment Period	School Tuition			Membership Fees				
					Academic Society Fee		Health	Total	
1001		Admission Fee	Tuition	Maintenance Fee	Seminar Fee	Admission Fee	Annual Fee	Insurance	
	Upon Admission	200,000	222,000	40,000	1,500	1,000	500	1,500	466,500
First Year	Fall semester	_	222,000	40,000	1,500	_	500	1,500	265,500
	Total	200,000	444,000	80,000	3,000	1,000	1,000	3,000	732,000
	Spring semester	_	223,500	40,000	1,500	_	500	1,500	267,000
Second Year	Fall semester	_	223,500	40,000	1,500	_	500	1,500	267,000
1 001	Total	_	447,000	80,000	3,000	_	1,000	3,000	534,000
Third Year	Spring semester	_	225,000	40,000	1,500	_	500	1,500	268,500
	Fall semester	_	225,000	40,000	1,500	_	500	1,500	268,500
	Total	_	450,000	80,000	3,000	_	1,000	3,000	537 ,000

Note: 1. Any applicant previously enrolled as a regular student in Waseda University or one of its graduate schools is exempt from paying the admission fee.

2. Any graduate of the School of Social Sciences and Graduate School of Social Sciences is exempt from paying the academic society admission fee.

Result of Entrance Examination

Master's Program

		General Ent	rance Exam	Special Entrance Exam fo	r Workforce Applicants *1	Entrance Exam for Foreign Students *2	
		Number of Applicants	Number of Successful Applicants	Number of Applicants	Number of Successful Applicants	Number of Applicants	Number of Successful Applicants
2006	Autumn	41	9	10	4	The Entrance Exam for Foreign Students was implemented in the 2007 academic year.	
2006	Spring	58	12	11	7		
2007	Autumn	26	7	8	4	6	3
2007	Spring	61	21	10	5	13	5
2008	Autumn	45	12	9	5	7	3
2008	Spring	43	9	7	2	16	8
2000	Autumn	49	12	6	4	11	4
2009	Spring	57	15	8	5	17	7
2010	Autumn	41	12	12	1	21	8
2010	Spring	51	12	10	6	37	14
2011	Autumn	30	10	12	10	35	13
2011	Spring	32	7	9	7	55	11
2012	Autumn	40	11	4	2	39	11
2012	Spring	44	10	9	4	53	15
2013	Autumn	28	9	5	3	29	8

The Special Entrance Exam for Workforce Applicants is for those who earned a bachelor's degree at least three years prior to the desired admission date.

Doctoral Program

	General Ent	rance Exam	Entrance Exam for Foreign Students *3		
	Number of Applicants	Number of Successful Applicants	Number of Applicants	Number of Successful Applicants	
2005	30	14	The Entrepes Evens for Foreign Students	as insulamental in the 2007 and amis year	
2006	47	21	The Entrance Examinor Foreign Students w	as implemented in the 2007 academic year.	
2007	54	17	0	0	
2008	48	16	0	0	
2009	42	22	3	3	
2010	52	23	2	2	
2011	40	18	4	4	
2012	26	17	3	3	

The Entrance Exam for Foreign Students includes "Selected Foreign Students" applicants.

The Entrance Exam for Foreign Students includes "Selected Foreign Students" applicants.

About the Contemporary Japanese Studies Program (CJSP)

English-based Degree Program (CJSP)



"The perfect environment for fostering practitioners well versed in the Japanese society, with excellent international communication skills that will help them succeed globally."



After the World War II, Japan underwent several difficulties that mankind had never experienced before: it quickly transformed itself from ruins due to large-scale air raids and the atomic bombing to a fully rebuilt country. It then attained fast economic growth and overcame environmental destruction, becoming the second largest world economy. This was followed by the collapse of the economic bubble, the rapid pace of demographic aging and low birth rates, and the unprecedented disasters caused by earthquakes, tsunamis and nuclear accidents.

To conquer these unknown problems, the people living in the Japanese Archipelago not only relied on compendiums of traditional knowledge but also through consecutive series of failures and successes they accumulated entirely new practical knowledge. If this compilation of wisdom can be summarized in the so-called "Japan Model", let us say that the mission of the Graduate School of Social Sciences is to research this model through an interdisciplinary approach.

integrate its collective wisdom for the human beings and transmit it to future generations.

Starting from September 2012, an English-based Contemporary Japanese Studies Program is offered by the Graduate School of Social Sciences at Waseda University. Unlike traditional approaches towards Japanese studies that privilege only local cultural elements, the CJSP focuses on the transdisciplinary component of the social sciences by integrating research areas such as Global Society, International Relations and Sustainability. The result is a powerful, comprehensive methodology that allows professionals to grapple with today's complex problems. This ambitious goal calls for ambitious individuals. The CJSP provides the perfect environment for fostering practitioners well versed in the Japanese society, with excellent international communication skills that will help them succeed globally.

Research Supervision of the Contemporary Japanese Studies Program

Research Areas	Research Fields	Research Supervisors
Cluster 1:	International Relations	Professor TAGA, Hidetoshi
Japan in the World	International Cooperation and Peacebuilding	Professor YAMADA, Mitsuru
Cluster 2:	Comparative Study of Basic Cultural Types	Professor IKEDA, Masayuki
Society and Culture	Comparative Culture: Japan and the United States	Professor COGAN, Thomas Joseph

Lecture Courses of the Contemporary Japanese Studies Program

Lecture courses	
International Relations	Environmental Law in Japan
International Cooperation and Peacebuilding	Environmental Economics II
Japan in World Development: Regionalism, Globalism and Post-colonialism	Global Food and Resource Issues
Comparative Study of Basic Cultural Types	World Population II: International Migration
Topics in Contemporary Japanese Studies	Contemporary Economic History of Japan
Politics and Government of Contemporary Japan	Japanese Economy: Current Structural Issues
Transnational History of Modern Japan	Japanese Society and Culture: Social Institutions and the Life Course

Seminar Courses of the Contemporary Japanese Studies Program

Seminar courses	
International Relations I·II	Comparative Study of Basic Cultural Types I-II
International Cooperation and Peacebuilding I-II	Comparative Culture: Japan and the United States I·II

Integrating Theory & Practice = SOLUTION

WASEDA UNIVERSITY

Graduate School of Social Sciences



